

2016年10月21日
14時07分頃
震源地:鳥取県中部
M5.6・最大震度:6弱

2016年10月21日鳥取中部地震

風化する以前に関心の低さに懸念



鳥取県で
震度6弱

(Infoseek楽天NEWSほか) 2016年10月21日14時7分頃、鳥取県中部を震源とした鳥取県中部地震は、マグニチュード6.6(暫定値)、最大震度6弱を倉吉市、湯梨浜町、北栄町で観測した。

地震の大きさに対して被害規模が比較的小さかったことから、約半年ほど前に起きた熊本地震と比べると、驚くほど情報量も少なく、県外の人々の関心も薄い。

鳥取県で震度6弱以上の地震が発生したのは2000年10月6日の「鳥取県西部地震」以来で、16年ぶりのことになる。(その前は1943年の「鳥取地震」)

地震当日の気象庁の会見では、最近1年間でマグニチュード4の地震が何回か発生していた中で、今回の震度6.6が発生したと報告があった。また、ここ2ヶ月ほどの間、県内を震源とする地震が目立っていたため、住民の間からは「今回の大地震の予兆だったのではないか」という声もあがっている。

鳥取県を中心に住宅の屋根瓦や壁が崩壊する被害が相次いだ。11月4日時点で、住宅の全壊2棟、半壊3棟、一部破損1,033棟が確認されている。倉吉市役所は耐震補強のおかげで倒壊は免れたものの、窓ガラスが割れ階段の一部が崩れたため、鳥取県中部総合事務所に災害対策本部を設置した。住居の損傷が酷い地



白壁土蔵群の一角、元帥酒造旧酒蔵・震災前のようす(画像:wikipedia)

震災で漆喰壁が剥がれ落ちた→(画像:時事通信社)



域では避難生活を強いられ、数十人の負傷者も発生したが、死者は出ていない。

国の重要伝統的建造物群保存地区である倉吉市の白壁土蔵群では、建物の漆喰の壁が剥がれ落ちた。広島県竹原市にある国の重要文化財復古館頼家住宅で瓦が10枚程度落下、島根県松江市にある松江城で石垣の間を埋める石が落下するなど、広い範囲で文化財への被害が発生した。

鳥取県倉吉市や岡山県鏡野町上齋原で観測された揺れは、周期0.4秒前後の短周期の揺れが卓越しており、木造家屋の倒壊に結びつく周期1.2秒の成分は小さかった。このため、屋根瓦など小構造物の被害が多い一方、家屋の倒壊は起きにくかったとみられる。

「東北に黒龍を送ろうー! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

「すけさきた」とは
宮城県登米市あたりの言葉で
「ボランティアに来たよ」という
意味である

NOVEMBER
11
2016



「地震、めっちゃ揺れました。家は大したことないですし、物流もあるし、東日本や熊本の時とは比べ物にならないくらい、日常に戻ることができて人の数は多いと思います。が、やはり余震が減るとともに被害が見えて来て、ブルーシートが続く屋根や赤紙が貼られた家などを見てちよつとがっかりすることの多い日々です。

元氣なんですよ。でも、大変だなーというのは日々のしかかっています。大工も左官も足りなくて家の補修は進まないし、観光も農産物も大ダメージです。」(住民談)

東日本大震災の後、復興が進む中で、震災による被害の記憶が風化し、必要な支援が途切れることを多くの関係者が恐れた。

熊本地震では、支援者にアピールする「くまモン」というアイコンがあり、熊本城の石垣や阿蘇神社の復旧が、節目々々に報道されるだろう。

鳥取中部地震はどうだろうか? 未だ避難所での生活をとおくる人がいる一方、すでに被害に遭った地域でも、予定していたイベントの一部を中止せず、延期したり、会場を変えたりといった対応で実施するなど、できる限りの日常を取り戻す動きも見られる。

しかし、そこに暮らす人々にとって、被害の規模だけでは計れない、疲労感やダメージは、今も少しずつ積み重なっている。(一部編集:文真による)

資料: Infoseek楽天NEWS、wikipedia、時事通信社、Tenki.jp、The Huffington Post